2009.3

S.O.E. News no.44

ホームページもご覧ください
NPO-SOE.JP

NPO センスオブアース・市民による自然共生パンゲア からのお知らせ

◉環境教育出前授業 豊島区立目白小学校５年生（'09年2月9・12・13日）

《グループワークを楽しんで、堂々と自分の意見を発表》―豊島区立目白小学校５年生

「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ

早稲田大学４年　杉山佑里子

２月の９、12、13日の３日間、豊島区立目白小学校５年生の皆さんと一緒に、フードマイレージについて勉強しました。

授業のはじめの産地当てクイズから、皆さん遠慮したり、恥ずかしがったりせず、元気いっぱいに自分から手を上げてどんどん発言してくれました。

そしてとても驚いたのは、皆さんとてもグループワークや発表が上手なこと。

産地マップと言って、スーパーのチラシから肉・魚・野菜・果物の内容を切り抜いて、日本地図と世界地図に貼った物をつくり、地図をつくって気づいたことを発表します。

…2ページへつづく↘…

◉環境教育出前授業 板橋区立高島第三中学校１年生（'09年3月5・13日）

「中学生でもフードマイレージを減らすことができることを知って、これから気をつけていくようにしたい」―板橋区立高島第三中学校１年生

「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ

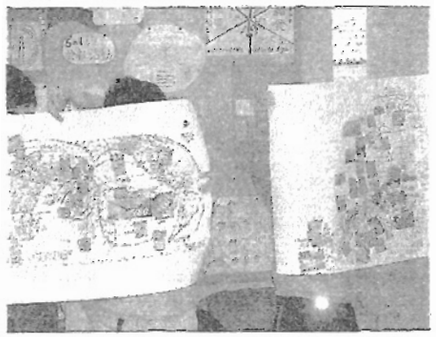
早稲田大学４年　白石雄貴

３月５日、13日板橋区立高島第三中学校にて４クラスそれぞれフードマイレージに関する出前授業をスタッフ８名で行った。授業の骨格はこれまで板橋区内の小学校で行ってきたものと同様であるが、小学生を対象としてきたものを初めて中学生に応用した。手巻きずしの食材を選ぶゲームを通して、地球の裏側など世界中から、輸入している実態を明らかにするものである。受けいれてくれるかどうか多少の不安はあった。

しかし、高三中の生徒の素直さにも助けられて、全４クラス順調に授業を進められることができた。「いろんな国からいろんな食べ物が日本に来ていて驚いた。」多くの生徒達がこのようなことを声にした。生徒に家から生鮮食料品のスーパーのチラシをもってきてもらい切り抜いて、食材の産地がどこにあるかを世界地図、日本地図に貼ってもらった。スーパーで売られている食肉や魚介類の多くは海

…3ページへつづく↘…

「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ－目白小学校5年生のつづき



時間内に切る・張る・発表内容を考える、というペース配分をメンバーに呼びかける子や、世界地図をみてどこに目的の国があるか探し当てるのが得意な子、出来上がった地図からある傾向を発見し、理由まで分析できる子、メンバーが間違ったやり方をしていたら、正しいやり方を教えてあげる子、などそれぞれの強みをお互い活かしあって、ともに成長しているのだなと感じました。

発表では、みんなの前でも恥ずかしがったり、言葉に詰まったりすることなく、堂々と自分たちが発見したことを自信を持って、発表してくれました。普段、発表する機会を楽しんでいる様子が伝わってきました。

授業の最後、日本の食料自給率が低いことによって起こる問題などを考えましたが、地球温暖化をはじめ、子どもたちのほうから様々な問題提起がありました。

フードマイレージの高さ世界第１位という日本の現状に対して、どう働きかけていくか。

自分たちが「やってみたい」と短冊に書いてくれたことからぜひ挑戦してもらいたいと思います。

寺田茂理事長講演会（主催：杉並区・中瀬ビオトープ倶楽部）

―“学校ほど愉快なものはない”を生んだ協働を探る―

日本女子大４年　佐藤佳苗

2009年２月。杉並区立中瀬中学校にて、センスオブアース理事長・寺田茂先生による講演会が開かれました。中瀬中学校の藤川校長先生を初め、理科教諭である樫田先生や、主催された中瀬ビオトープ倶楽部の方々、保護者、庭園師さん、ビオトープネットの方々、小学校校庭指導員さんなど、多くの方が訪れ、区を越えた温かな交流を深めることが出来ました。それでは少し、その講演記録をご紹介します。

寺田先生のお話を聞いて―「学校ほど愉快なところはないと、本気で思った人たちがいた」

時をさかのぼること35年前。寺田先生が小学校の教師になられた当時は、今ほど環境保全が言われていなかったそうです。その後90年代の小学校では、いじめや不登校、学級崩壊という問題が起こり始めます。それと同じく、地球環境問題が深刻化し、実は、子どもの心の問題と、環境問題は本質的にはつながっているのではないかと話が広がりました。集まって下さった皆さんの息遣いが聞こえてきそうな程、皆さん真剣に話を聞かれていました。そう。この二つは「いのち」が壊れることから起こる、綻（ほころ）びの問題でもあるのです。

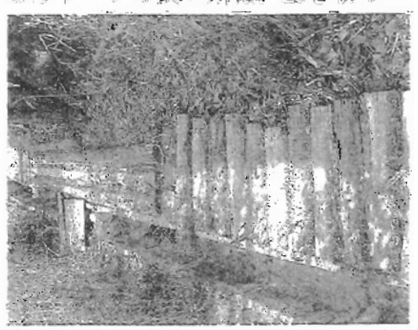
ビオトープ作りでつながったもの

それを何とかしようと思い寺田先生が行ったのが、ビオトープ作りでした！

蓮根第二小では、子ども、教師、地域の人達が協力し合い、土を起こす所からビオトープを作り上げていったそうです。想像するだけでも大変な作業です。

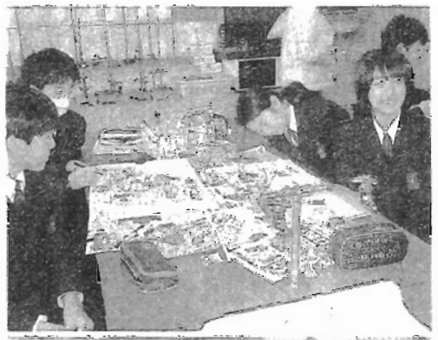
さあ、そうして出来たビオトープにこんな嬉しいことが待っていました！

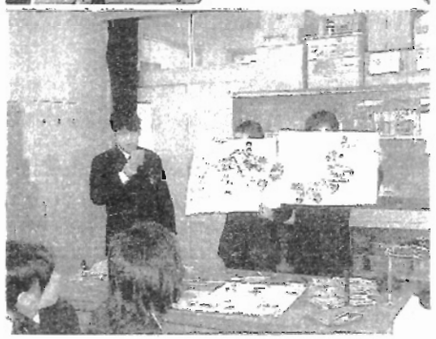
緑の少ない都会の片隅に、トンボが飛んできたこと。アズマヒキガエルが卵を産んだこと。カルガモがやってきたこと。自然は共生しているのだと実感できたこと。ビオトープの良い所は、生き物の生態系を、季節を通して観察することが出来、それを育めることです。汗水流して作り上げた自分達のビオトープであればこそ、子どもにも教師にも愛着があり、実感があり、大切に守ろうという気持ちになります。生き物が住みよい環境を守りたいと思い、そのためにはどうすればいいか考え、そこに実感が伴っているから、緩むことがありません。環境教育とは、本来そのようなものだと改めて思います。講演会では、ビオトープを作ろう会元会長の増田さんのお話もありました。増田さんは、ビオトープを通した子どもたちとの交流と豊かに訪れた生きものの映像をとても楽



中瀬中学校にあるたくさんのビオトープのひとつ
立地条件を上手く活かし校庭を囲む自然観察路

「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ－高島平第三中学校1年生のつづき





外からの輸入であることを、実際に自分の手を動かして目で確かめることができた。教科書に書かれている知識以上に、自分に関係がある身近な生活の事実として興味を持ってくれたはずだ。

日本の食糧問題に関する関心は年齢には関係がないのではないかという印象がある。過去に日本女子大学で同様のフードマイレージの授業を行ったが、日本の食糧問題に関する知識は、小学生も大学生も大差はない。しかし、年齢を重ねるに連れて、問題を自分のいる社会生活と結びつけて、考えられるようになっていくのではないかと感じた。

○「中学生でも減らす事ができる事を知ってこれから気をつけていくようにしたい。」

○「協力して、近所の人にもこの話をしていきたい。」

○「食糧偽造事件などで産地は見てきたけれど、これからもっと産地の部分を見ていこうと思いました。」

授業後のアンケートでは、中学生だからこそ出てきた言葉がたくさんあった。

○「野菜は日本産が多かったけれど、魚介や肉の多くは輸入していて、ヨーロッパやアフリカからは輸入していない。」

発言をしてくれた中学生は、その裏側にある問題を知らなかったが、世代を問わず、その問題の重大さを少しでも意識してくれることが大切であると思う。家で出てくる料理、スーパーで並んでいる食材を私たちは、何処で作ったか、誰がどのくらいの手間をかけて作ったのかを知らない。日本の自給率が40%であることは小学校でも習うことである。しかし、中学生も大学生その数字を覚えていない。食糧問題への関心は低い。私たちの食卓に上がる食べ物はあって当たり前と言う意識があるのではないのだろうか。もし、なんらかの原因で食糧の輸出が止まったらどうなるか？　自分達にできることは何があるか？　授業が考えるきっかけ、行動のきっかけになれば嬉しい限りである。

昨今、実際に就農する人の数は多くないが、農業へ就業したい人間は増えているという報道もある。人の意識は少しずつであるが変化してきている。

環境教育がもたらすのは、小さな変化のきっかけである。これからの世代に自分達で考えるための種を蒔く作業は地味で地道なことであるが、これから小学生にも中学生にも高校・大学生・社会人にも、全ての人に必要な事である。

しく紹介していました。愉快で、学びのある時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました！

守り続けることの難しさ

最後に、寺田先生・藤川校長先生を交えてのディスカッションもありました。ビオトープを作ることだけでなく、それを「残す」ことの難しさが話し合われました。ビオトープを作ったはいいけれど、それを引き継いでくれる人がいなければ成立しないという問題です。環境を守り続けるには、多くの人の協力がなければ出来ないのだと思います。

環境問題とひとくくりで言っても根が深く、原因は多岐に渡っています。一人では解決出来ないからこそ、みんなで連携し、協働していくことが大切なのだと改めて考えさせられました。

中瀬ビオトープ倶楽部の皆さんと倶楽部会員でもある藤川校長先生（前列中央）
［SOE寺田（前列左）・SOE増田（前列右）］

◉ S.O.E. 活動報告（2009年2月）

日	曜	内　容
1	日	センスオブアースのワークショップ。中学校用「食べ物はどこから」プログラム修正検討、6年「ぼくの木・わたしの木」ネイチャーゲームのプログラム検討。目白小5年授業、役割分担、学校との打ち合わせ準備など
2	月	目白小　5年担任との打ち合わせ　3人参加
7	土	大学院環境マネジメント修士1年合宿にて、「学校ほど愉快なところはないを生んだ協働」学校ビオトープ作りから環境教育のNPOへの特別プレゼンテーションを行った。（～8日まで）
9	月	豊島区目白小　5年2組　「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶの出前授業実施―学校公開週間中
12	木	豊島区目白小　5年3組「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ実施
13	金	豊島区目白小　5年1組「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ実施
14	土	杉並区立中瀬中学校　中瀬中ビオトープ倶楽部主催講演会にて「学校ビオトープを楽しく」をSOEが講演 杉並区内NPO関係者との交流実施
19	木	川口市民環境会議の牧野さん訪問取材―エコライフデイ・学校出前授業・子どもたちによる環境フォーラムの3つを軸にした活動など、自治体とNPOとの協働などを3時間伺った。（2003年エコライフデイで環境大臣賞受賞）
22	日	センスオブアースのワークショップ　3月の授業準備、トーフづくりのさらし縫い、ネイチャーゲームのエンジン作りなど
25	日	東大環境サークル「環境三四郎」の人から取材を受けた。
27	金	板橋区立緑小・板橋区立高島第三中　担任等と授業の事前打ち合わせ実施
28	土	板橋のESD「共に生きる世界・地域をつくる学び合い」環境省関東事務所主催　出席

◉ S.O.E. 活動予定（2009年3月）

5	木	板橋区立高島第三中　1年4組3・4時間目　2組5・6時間目「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶの授業予定
6	金	板橋区立緑小　5年2組「ぼくの木・わたしの木」授業予定　雨天延期日12日
7	土	SOE学生メンバー　年間反省合宿予定（～8日まで）
9	月	杉並区杉並エコスクール研究会山内さん、堯さんと活動交流予定
10	火	板橋区立志村第四小　5年全　「志四小産トーフ作り」授業予定
13	金	板橋区立高島第三中学校　1年1組　1・2時間目　1年3組3・4時間目　授業予定
22	日	SOE 3月号ニュース発行作業予定日
29	日	センスオブアースのワークショップ　4月からの活動準備・活動交流予定

発行　特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
東京事務所　東京都板橋区前野町4－8－6（〒174-0063）phone: 03-3960-6052　fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp　url: www.npo-soe.jp